

[8]えびの市小学校体育連盟

(学校数 5校 児童数 906人)

I 年間事業

期 日	曜	内 容	会 場
5月 7日	月	・役員選出 ・年間活動計画検討 ・研究計画	真幸小学校
6月 7日	木	・水泳大会打合せ ・研究内容検討	真幸小学校
7月 24日	火	・水泳大会前日準備	飯野小学校
7月 25日	水	・水泳大会 ・水泳大会反省	飯野小学校
8月 24日	金	・陸上大会計画 ・研究推進	真幸小学校
9月 27日	木	・陸上大会計画 ・研究推進	真幸小学校
10月 22日	月	・陸上大会前日準備	飯野小学校
10月 23日	火	・陸上大会 ・陸上大会反省	飯野小学校
11月 30日	金	・研究授業 ・授業研究会	上江小中学校
2月下旬		・年間活動のまとめ ・次年度の方向性について	真幸小学校

II 事業部のあゆみ

1 水泳大会

- (1) 大会名 平成30年度えびの市小学校水泳大会
- (2) 実施日 平成30年7月25日(水)
- (3) 会場 えびの市立飯野小学校プール
- (4) 出場者 えびの市内小学校(5校) 5・6年生選抜選手
- (5) 実施種目 ※すべての種目「飛び込みなし」

	5年生競技	6年生競技
	種 目	種 目
男子	25m自由形	25・50m自由形
	25m平泳ぎ	25・50m平泳ぎ
女子	5年女子25m自由形	25・50m自由形
	25m平泳ぎ	25・50m平泳ぎ
リレー	学級対抗100mリレー	6年男子100mリレー
		6年女子100mリレー

(6) 競技方法

- ・ タイムレースとする。
- ・ 出場する種目は、1人1種目とする。各学年男子10名、女子10名に満たないところについては、2種目までエントリー可とする。
- ・ 5年学級対抗リレーについては各学級男子2名、女子2名出場を原則とする。
- ・ 6年リレーに限り、5年生が6年生種目に参加することを認める。
- ・ その他細部についてはえびの市小学校体育連盟による競技規則を適用する。

(7) 日程

- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| ① 開会式 9:00 ~ 9:10  | ② 水慣れ 9:15 ~ 9:30   |
| ③ 記録会 9:40 ~ 11:20 | ④ 閉会式 11:25 ~ 11:35 |

1	6年女子50m自由形	7	6年男子25m自由形	13	5年男子25m平泳ぎ
2	6年男子50m自由形	8	5年女子25m自由形	14	6年女子100mリレー
3	5年学級対抗リレー	9	5年男子25m自由形	15	6年男子100mリレー
4	6年女子50m平泳ぎ	10	6年女子25m平泳ぎ		
5	6年男子50m平泳ぎ	11	6年男子25m平泳ぎ		
6	6年女子25m自由形	12	5年女子25m平泳ぎ		

(8) 表彰

各個人種目、リレー種目3位まで入賞とする。

(9) 反省

- スムーズに大会の運営が行われた。タブレットの配給や給水所・ミストの設置など熱中症対策がすばらしかった。
- 実施要項に書いてある平泳ぎのルールがあいまいに感じた。

2 陸上大会

- (1) 大会名 平成30年度えびの市小学校陸上大会
- (2) 実施日 平成30年10月23日(火)
- (3) 会場 えびの市立飯野小学校運動場
- (4) 出場者 えびの市内小学校(5校) 5・6年生
- (5) 実施種目

5年	6年
100m走	100m走
50mハードル走	50mハードル走
走り幅跳び	走り幅跳び
ソフトボール投げ	ソフトボール投げ
800m走(女子) 1000m(男子)	800m走(女子) 1000m(男子)
学級対抗リレー(100m×4)	学校対抗リレー(100m×4)

(6) 競技方法

- ・ タイムレースとする。
- ・ 出場する種目は、1人1種目とする。ただし、各学年男子10名、女子10名に満たないところについては、2種目までエントリー可とする。
- ・ 各学年男子30名、女子30名を超えるところについては、各種目プラス1名のエントリーとなる。
- ・ 5年学級対抗リレーについては各学級男子2名、女子2名出場を原則とする。
- ・ 学校対抗リレーは、男女別で競技を行う。小規模校で学校対抗リレーのチーム編成が男女混合になった場合の出場は、男女どちらの部も可とする。ただし、記録は男子の部のものとする。
- ・ その他細部についてはえびの市小学校体育連盟による競技規則を適用する。

(7) 日程

- ① 開会式 9:15～9:25 ② 記録会(午前の部) 9:50～12:15
- ③ 閉会式 12:15～12:25 ④ 昼食・休憩 12:25～13:25

トラック競技				フィールド競技		
1	5年女子	100m走	一般・選抜	6年 男女	走り幅跳び	選抜
2	5年男子	100m走	一般・選抜			
3	5年男女	800m・1000m走	選抜			
4	6年男女	800m・1000m走	選抜	5年 男女	走り幅跳び	選抜
5	6年男子	50mハードル走	一般・選抜			
6	6年女子	50mハードル走	一般・選抜	6年 男女	ソフトボール投げ	選抜
7	5年女子	50mハードル走	一般・選抜			
8	5年男子	50mハードル走	一般・選抜	5年 男女	ソフトボール投げ	選抜
9	6年男子	100m走	一般・選抜			
10	6年女子	100m走	一般・選抜			
11	5年男女	学級対抗リレー	選抜			
12	6年男女	学校対抗リレー	選抜			

(8) 表彰

各個人種目、リレー種目3位まで入賞とする。

(9) 反省

- 午前中につめて実施するのは困難と思われたが、小体連の先生方のスムーズな進行で円滑に行われた。午後からのゆとりを考えると午前中だけのプログラムも魅力的である。
- 競技が全て終わり、ライバルとかではなく、各校混合で和やかな雰囲気でお弁当を食べる姿がよかったなと思いました。
- 主催者側主体の考えではなく、あくまでも練習をがんばってきた子どもたちが最大限に力を発揮できることを主体として考えていただきたい。フィールド競技の進行やリレー練習の有無など課題は多い。

### Ⅲ 研究部のあゆみ

#### (1) 研究主題

わかる・できる・かかわる授業の創造と展開  
～器械運動領域の指導方法の工夫を通して～

#### (2) 研究目標

- 児童が仲間や学習に主体的にかかわり、運動の楽しさや喜びを味わうことのできる体育科学習の指導方法を追究する。

#### (3) 研究仮説

- 器械運動領域において、タブレット端末を主とした ICT の活用の促進及び学習環境の工夫を行えば、児童が仲間や学習と主体的にかかわり、運動の楽しさや喜びを味わうことができるであろう。

#### (4) 研究計画

研究年度	昨年度	本年度	次年度
研究内容	○ 器械運動領域(マット運動・跳び箱運動)における教師及び児童へのアンケート調査	○ アンケート結果をもとに、わかる・できる・かかわる授業づくりのための実践及び検証	○ 指導法の周知及び幅広い実践 ○ 研究のまとめ

#### (5) 研究の実際

##### ① わかる・できる・かかわるための手立て

項目	内容
わかる	○ タブレット端末の撮影機能を活用し、自分の動きを客観的に見せて、自分がどのような動きをしているのか気付かせる。 ○ タブレット端末のインターネット機能を活用し、NHK FOR SCHOOLの映像教材を自由に閲覧出来るようにする。 ○ 特に留意する必要がある技のポイントについては、大型テレビに映し、一斉指導をする。
できる	○ わかる・かかわることをできるにつなげるために、達成度別に学習場所を設定する。
かかわる	○ タブレット端末で撮影または閲覧した動画を見ながら、技の出来栄やポイントを伝え合うことを促す。 ○ 仲間への技のアドバイスや励ます言葉かけなど、かかわりを毎時間、振り返られるようにワークシートに自己評価をする項目を設ける。

##### ② 授業研究会

平成30年11月30日 上江小中学校 米良美沙紀 第6学年 マット運動

本時の目標(6/8時間)

- 技をつなぐ方法を知るとともに、自分の力に合った技を組み合わせることができるようになる。

(思考・判断)

#### ア 学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	○: 評価項目 (評価方法) 【Bの例】	「努力を要する」状況と判断される児童への手立て
はじめ 10	1 用具や場の準備 2 準備運動 3 感覚づくりの運動 4 学習内容とめあてを確認する。	・ 前時を振り返り、本時の目当てを確認する。		
	身に付いた得意な技をなめらかに行えるように組み合わせよう。			

なか 25	<p>5 身に付いている技に取り組む。</p> <p>6 組み合わせた技を滑らかに行えるように取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループで個人に適した課題に取り組み、お互いの技をみてアドバイスし合うことができるようにする。</li> <li>動画を用いてポイントを説明することで、イメージしやすくする。</li> <li>組み合わせる技は4つ程度とし、身に付けた技が少ない場合は、技をくり返してもよいことを助言する。</li> <li>グループで行うことで、お互いにアドバイスし合うことができるようにする。</li> </ul>	<p>○ 技をつなぐ方法を知るとともに、自分の力に合った技を組み合わせることができるようにする。(思考・判断)</p> <p><b>【Bの例】</b> 技をつなぐ方法を理解し、組み合わせた技を滑らかに行うことができる。(観察・ワークシート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>掲示物や動画でポイントを参考にしながら、取り組むよう助言する。</li> <li>タブレットで撮影した動画を見て自己の動きを確認しながら取り組むよう助言する。</li> </ul>
お わ り 10	<p>7 整理運動</p> <p>8 振り返り</p> <p>9 片付け</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループで整理運動を行う。</li> <li>グループ内でよかったところ、上達を実感できたところを話し合い、発表することで、学習を振り返ることができるようにする。</li> <li>協力して片付けをするように声かけをする。</li> </ul>		

## イ 授業の様子



## (6) 成果と課題

### ① 成果

○ ICTの活用及び学習環境の工夫をしたことで、技のポイントの理解が十分に図られ、児童が進んで自己の課題を見つけたり、他者と技の出来映えや改善点を伝え合ったりすることを十分に促すことができた。

### ② 課題

○ ICT 機器を頼りにした授業展開だと不具合が生じたときスムーズに授業を進めることができなくなると感じた。習熟の時間を十分にとれるように時間配分を考える必要がある。

○ 研究授業だけではなく、日頃の授業でも ICT の活用ができるように、整備及び活用の周知を行う必要がある。